

報 告 書

2023 年(令和 5 年)10 月 16 日(月)に先進地行政視察の為、奈良県生駒市に出張しましたので、その概要を報告します。

2023 年 10 月 18 日

報告者：高城 庄佑

三田村 峻

記

日程： 2023 年(令和 5 年)10 月 16 日(月)
出張者： 敦賀市議会・文教厚生常任委員会
山本 武志 / 高城 庄佑 / 山本 貴美子 / 有馬 茂人 / 中道 恭子/
三田村 峻 / 森下 貴士(議会事務局) 計 7 名
視察先： 奈良県生駒市 : 重層的支援体制整備事業について

- 1) 日時： 2023 年(令和 5 年)10 月 16 日(月) 10:30-12:00
2) 場所： 奈良県生駒市役所
3) 相手方： ◎ 生駒市福祉保健部福祉政策課
上野 啓介 課長
◎ 生駒市福祉政策課福祉政策係
吉田 亜優美 主任

(その他議会事務局等メンバー 添付名刺コピー参照)

- 4) 視察目的： 他市の重層的支援体制の状況を視察し、
当市の重層的支援体制整備の参考とする。

【内容】

- 5) 重層的支援体制について
制度概要／相談支援窓口について／いこまる推進員制度について／地域づくりに向けた支援体制について／アウトリーチについて／多機関協働体制について／支援プランの作成について

添付した資料、生駒市 “重層的支援体制整備事業の取組” の通り。

6) 特に参考になった説明内容、当日の質問への回答

既存の窓口を用いる建付けである。

つながシートと題されたフォームを用いることで他機関との連携をスムーズにしている。これは最初の担当員により作成され、手渡しで使用されている。

いこまる推進員を45課（庁内ほぼすべて）に配置しており、そのサポートのために相談支援包括化推進員「いこまる主任推進員」を設置している。例えば税の担当課にも居る。

民間事業としてヨギボーやビジョンなどからも協力を受けている。また、話題のチロル堂とのイベントなども実施している。

庁内の意識醸成については負担の面からもやや難しい面もあるが、理解してもらいながらになっている。

いこまる、かさねるいこま、などのワーディングは職員による。ロゴ等はデザイン、公募による。

イベント化することで足を運びやすくするために「いこまる相談会」を月1回程度、対面オンラインの両方で開催している。事前予約に基づき、適切な職員が対応できるようにする。

厚意により地域資源のデータベース化のためのシステムが提供された。

一般向けパンフレットについては堅苦しくなく、アクセスのし易さを優先したデザインとしている。

7) 事前質問応答

Q1 生駒市重層的支援体制整備事業（かさねるいこま）の概要と移行状況について

A1 資料最終等頁参照

Q2 行政や地域、民間事業者、各種団体を含めた支援の範囲と体制構築につ

いて

A2 様々な団体に声掛けもしているし、団体の受け入れについても福祉政策課にて行っている。

Q3 相談支援について

本年6月から運用している「いこまる相談窓口」の設置場所や具体的な運営方法、利用状況

A3 場所についてはリーフレット参照。基本的に資料の通りだが、「繋ぎきる」ことを重視している。

ひきこもり等により相談窓口に来られない方への支援

いこまる相談会の開催、オンライン空間のアバターでの参加も予定している。アウトリーチについては範囲を広げるより、必要とする人が居そうなところから行っている。

Q4 地域づくりに向けた支援について、市民全員で必要な社会資源を「かさねる」とあるが、具体的な取組み

A4 わがごと会議を用いたり、既存の地域コミュニティとも連携し、社会資源を重ねている

Q5 介護保険負担について

A5 65歳問題について要望が強くあるわけでないので、今後も重層にて取り扱いの予定はない。

Q6 庁内外の連携について

A6 いこまる推進員、推進員会議による。地域共生社会推進会議も開催される。介護サービス事業者や社会福祉協議会などとの交流会も実施している。

Q7 現在の課題と今後の展望について

A7 必要としていそうな世帯の情報共有に課題。支援員たちの目標意識の統一。

8) コメント：

先進的であるのはもちろんだが、何よりも担当職員の方の熱意を感じた。それが様々な制度の拡張につながっていくものであろうし、零れ落ちることのないようにするという制度趣旨にもつながっていくものと感じた。また、生駒市もアバターの活用など試行錯誤をしている最中であるとも感じたので継続的に連携をとることができればなお良いとも考える。まずは当市委員会での審議の参考としたい。

以 上

関連資料は別途添付する。